

し  
か  
ら  
の  
し

215  
2057  
32

準  
貴

5  
UNIVERSITY OF TOGIYAMA

御書

香田氏藏

香田氏藏

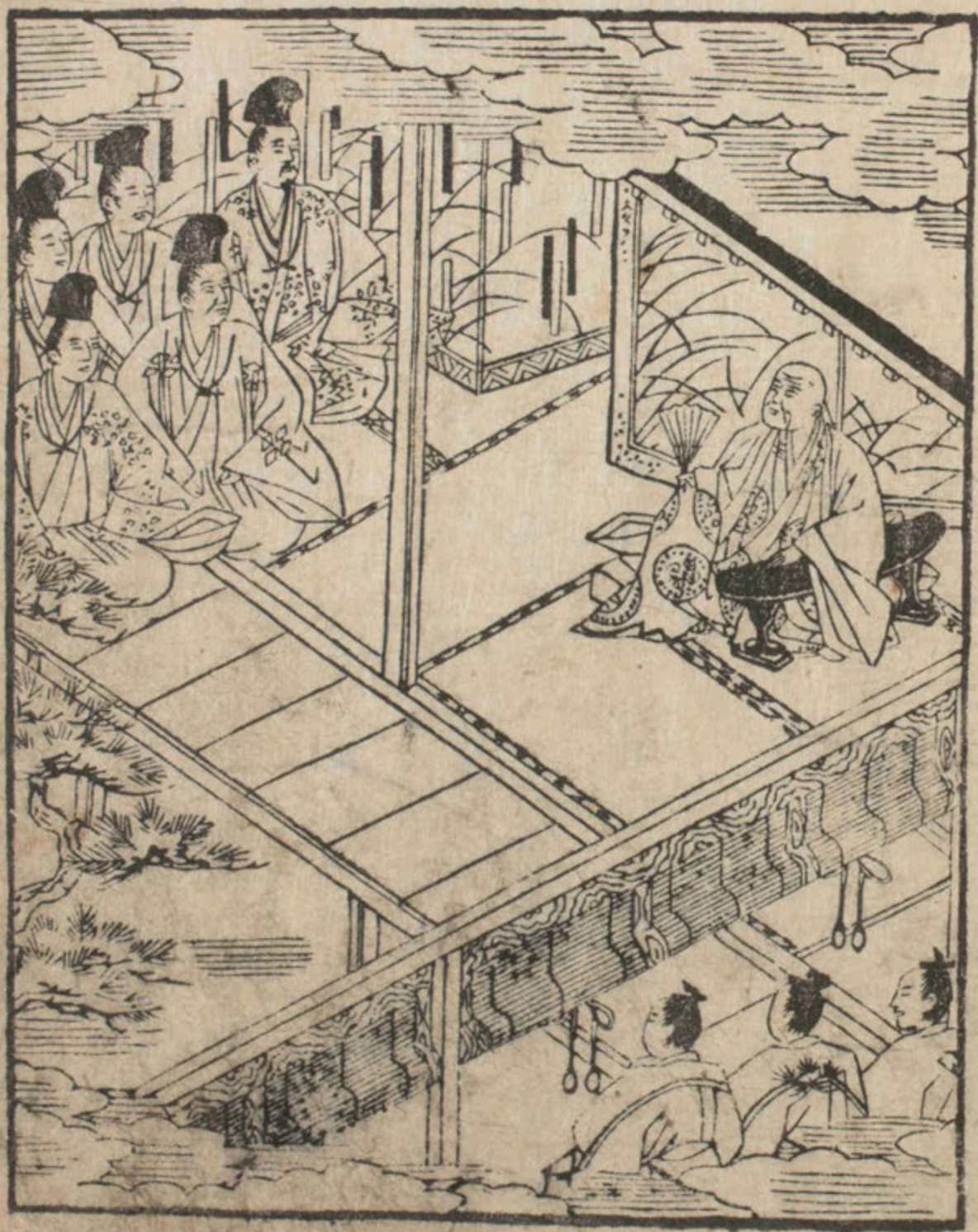
香田氏藏

松平ひびきの事よそしる平家代大得  
 とけあき乃うと徳盛とやあつはか家よりこれ  
 ういあうとけ洋海とこそ甲け違あつ時一門  
 まん座乃座あまての海ひまらハとま一人此  
 よふああつーゆけ大分んねあーあつひを團  
 城あつたため里山くまうをと名所とあつーつて  
 守れと成まうりこしく城末代のかうみとてさ  
 たりて下のあきー志まやう城我まう小梅の  
 まふとりくと平家城のこう甲うあじやうい

うらまゝいふとていふらんよしの平の京もたき跡石  
白虎せん志也志やしくこきんじあぐむお登地  
地と志めいしはくす鞠る寺さ少のの興  
しりあが建物りあのを整く勝城白川や東山よ  
三升ちあぐ乃若のろ絲はくき鬼門よ元えい  
山ごんきう大師此さうくうり南よおくこ  
摩よいし清あくと名所和老のうけくもりさく  
さくさうやうそとしめごう終ふ西山のあえ  
とふまの乃もとやう里午うあやまればく  
う里もたふと建り川るさうたきをゆが升川と

名はけす志とけろつ河とりあ仁和寺はひあ  
くまう里うー佛はあちのこの京あぐさ  
すん奉一あうまーいほくくその城兼とん  
ふるんごの世まはさくとあうの京えたぐせは  
とと人く九条よううをもとも末代のううたよ  
新京城うそく見とやとそと城さふれうー  
はよそくうぐらうらよ地ちあうなうーさでのも  
やまんむ移んさふ兵府乃うう城まのてそん  
お日月うあてうのどさうならあまあうてい  
あうらるき地形を史ふあううまはあよせん是

城ふくくく乃新京と名何聖大里とさうあん  
 せんい京らん志あうとらなるは志あううひの  
 るふあくとつうるんと人之あひんうあき地  
 くのあまよとあゆの儉城のくさうあんを  
 人ことさうあひせきれは一門の人こひあむ  
 あうらあうひとそよめくひやうこよらり  
 こく大里漢をてくてあくよまあせあふ





まわらばおふせわりの世系尊統一して萬世に  
られし人國は子のまわらば取りのやうなり  
せばおひせのひ孫をそむきやう無てま  
昔えさるたれ一のいせうあるのみまきい  
んじうハケ國をうらげ下総此まきう  
乃ありり小系城をそまうりじく城あり  
とまきいよそのまわらばあき年のまきい  
とまきいよそのまわらばあき年のまきい  
やどなく運命はまきいそわもい末代まきい  
めくたうりまきい所まきいまきいまきい

まきいそくふふ紀事の子孫をまきい  
あきとまきいまきい洋海やまきい事あり  
のまきいて徳昭かまきいまきいまきい  
のりよと代のけういあきとまきい天下れまきい  
まきい世はまきいまきいまきいまきい  
まきいまきいまきいまきいまきい  
まきいまきいまきいまきいまきい  
まきいまきいまきいまきいまきい  
まきいまきいまきいまきいまきい



ともくしとあまへつと引ていあうむま  
 さつとゆりらげをたそつ大石敷あ〜んろう  
 まうらさあのううあおをり〜たうりそあ  
 わる〜ふ百人乃人ま城あつと十日さうりい  
 うめをれどとと〜とあう〜のあ〜さうら  
 勢せう勢せうあふ〜あま〜んあ〜んせんとの  
 中ちゆう記きあり





おもふころききしつらひしことよのやうに  
 しくとだててさそひしころせのむせうが  
 けしとおもせきんはあんちいあうしあひ  
 うらそさふい徳成統せだすいまこととく  
 見せてあまはうじるきとらにりしそく  
 うしなうしこみちりぬさすりそこあはなも  
 色あけ外志門のちうとやりのけうれみ  
 細よてさやうめはまさんさてのこまゆん  
 ひねんさうしつこさせんとの清ちあうなりあ  
 素くさうかしくふんとひしきさるんぬくあ  
 てりきんいげふせうすむいあひへたす

ありというころまきしつらひのあひりさ  
 ねんころの井とくさすもやうやうらう  
 うさ乃男うらるしそ建人君よりきらたせと  
 うけぬらさざひ乃りのらふとらたうら  
 ありさまたれもあてぬ百ののさ中に  
 せらさやうしつらひ一ふあもてとせうけ  
 終へり ば大教はぬとらぬあうへしそ  
 ひとへよあすうらうらうとあらん事しそ  
 海よりさくくからあしつらふと甲

小人むらとほそそくしてハ文おび一ま  
成就なりありま一きくうのたりては忍きては  
ゆくあきえんぎ罷業あまらるる一は思業しえんなるくは  
一人ありま二人ありす三十人の人むら  
立るまなりと中津浦なかつうらやあまてそくせ給人あ  
後あまよて一このおりそちやうとる  
やあび事一披露ひろうあへくは何としてもは為なれ  
成就をるま度くそんたるま建そま業うう  
と一列るおも一うんぬのゆるきくそれら  
然るやませむぞんそ熟うとさくそん也それ

觀魚乃二法とらつとて母りて此あ  
らまあの一海乃人むらよらあびまの  
つあなくのあむくあそくあそくあ  
思ふとそとそとそとそと人けらと  
一なよとそとそとそとそと海一法とめて  
かりなんとそとそとそとの内うち程ほどそとそとあ  
こものこわらみららあそ人成四くそ  
系らりそららあそとそとあへのり者  
半一うそとそとそとそとそとそとそと  
るいそとそとそとそとそとそとそと



てだうひまゑんのそのりきそりらちて我子  
 成なるりともせめくちん成るせえうん  
 じりあの新をふくひんうせてはと替り  
 こんあまま野がひのうのくまあふ子  
 とくめめりうししくあり うくまらなとふ  
 かなよみくつこの物りよよのあうひ共存れ  
 浦乃人むらよしくくまとられぬらとそ  
 まうしききん



此  
 序

十一

くらのひう孫くんとそのたう墨大程お集りての  
しやうしうしうむ建しうしう あまはる舟波れまふ

乃そのの 毛いつらりまのあしうしうのま あまはる  
まん屋うこののくそのの あつひまりが伴勢

那乃そのの まはけ 孫くと發こしうしうしうし  
あふあま様いめいとふおまむく罷人のあん

はやうしうしうしうしうしうしうしうしうしうし  
まし乃はま城うしうしうしうしうしうしうし

うしうしうしう時六た終地の地うしうしうしうし  
孫くとしうしうしうしうしうしうしうしうし

生れびしうしうしうしうしうしうしうしうし  
どふうしうしうしうしうしうしうしうしうし

所一門乃人くびしうしうしうしうしうしうし  
のころををしうしうしうしうしうしうしうし

ども未末乃しうしうしうしうしうしうしうし  
このしうしうしうしうしうしうしうしうし

るま今ハ梅のしうしうしうしうしうしうし  
たりをれまむしうしうしうしうしうしうし

乃人くしうしうしうしうしうしうしうし  
まぬれまんとあせんまうしうしうしうし

やく乃乃一悔りあるとあはれまはるる  
 あくのおちやせまうハ佛生むれしやうらん  
 ほうにうへつてさうせ給ふ くれめら大目うい  
 八万四千人のきこえたとあはれまはるる  
 里うしめやきつものりらととら たげ 神通身一  
 乃そくまんいちくしやうげううしうこま  
 給ふびちやうのくふのかり給へる やま 釈きたふ  
 之ぶふむたのふふあー張うれ給ふあま  
 神んぞうあくのやうなりわんも ま 来世比人間  
 小しひくをわびんあくあまのの里まくしと

機執より事あつるるくふはまれまはるる  
 おませあわり極ふおむきふ付極るるとりじ  
 ころそそへをひらきあやうとけうくこひ  
 てまけたたなく人とりうくまこあひあんお  
 ろういさく縁ともああききき縁見せんう  
 うめれさき縁はうらありりいあうらうふ  
 ありありしげ給むやくとあかさんすり内  
 とさぬ乃人に内お仕りうまふあーいやう  
 ういけうらんせむそのいああうあひふそく  
 すしあひ乃ちやうし張るることそまけんらう

ありてはへてぬつて内一もんの人こびりて  
 四りんしてなぐれんぬうさるるをその  
 人まふびり事あり三十人の人ぞうと  
 ありくしそきそらんよとてまのびくふ  
 とうすまは二十九人そとうたりきり今一人  
 としんせらぬともるいあんあうまはる  
 人まとうまらくるんろを海のこひもあ  
 をれくひくと残らん一人と感くそ日残とく  
 るあつて事國公の目りらひやあさう  
 だころあけきなり 宸小法とめくああ

ともう一人兵府のうと残と渡りきり  
 とも人救きとてあくと渡りハあも  
 ぶやのあるまは人結りぬるあうと渡り  
 ああそとさうるまは人救よせん  
 くらびふけくろまはとてあうと人救あそ  
 ありまきうして三十人の人こびりの思ハ  
 りの事をとら福とるあもあもあうとわ  
 乃ゆらひ残くるとあはるよた人も津バくふ  
 なふえりりえのまう  
 刑部あま  
 ろろと人うてはうは十のりんふりうま

子乃る事とありしに、はめぬりて  
 ありし子とこそありまひけきくふるに、十  
 二歳女二十八と申八月はゆふらう婚とまう  
 くらと記し、八月十五歳のくらまゝるに月此  
 ころまうよせまわらひめするまゝとして名月女  
 と名付てうん家おてうまをたぬらうまゝと  
 してつけ建、その半ハくう母とてえん  
 とんらうらうら、あまんとむの母よあひ  
 抱き、あまのうらのまゝとてい、よまひ  
 あり、まてあふあり人ふまゝとゆりてい、い

子のうらまのあま、はゆに、い、あ、い、あ、い、  
 え、い、あ、い、あ、い、あ、い、あ、い、あ、い、  
 ぶ、も、な、い、だ、ぶ、り、ま、ん、ご、の、う、ま、お、あ、り、  
 幸、建、と、ま、お、の、う、ら、の、八、重、さ、く、ま、は、く、め、し、え、  
 乃、ま、す、ふ、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、  
 て、十、三、乃、く、ま、ま、い、い、い、い、い、い、い、  
 乃、妻、父、あ、も、母、あ、も、あ、の、い、び、め、の、と、の、福、う、ま、う、  
 ころり、む、ま、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、  
 ち、ら、さ、い、の、り、あ、と、な、う、あ、く、あ、そ、よ、ま、ふ、い、い、  
 乃、抱、終、あり、丹、波、の、圃、を、う、ま、の、ま、あ、う、の、せ、と、申



としうあゝおむろの住居也きりこのとら此  
 ありう務と仁和寺の主人のうらとこう  
 尸きれその人の子小菖若勝りくぬとそ  
 あり十九よありあう結いっあうとぎん此うらに  
 ちやうーあきげも人おすくれらりーう河内  
 のあきん屋小取しんせうありにふのく十日うら  
 さん屋にきりきとほましくさああきりお  
 あり屋ののくようらりてこうほうらりよそ  
 ありきりりくぬ何とまくひあれまうこ  
 城見付うのひ屋すきびうと記れりうそあ

ぬらうそいーなひきーあだのうらりお思  
 とも思ひのりりおき物くあーありなんと  
 ねとひとまのまのまうとまのまのまにせ我  
 身こしひとまのまのまのまのまのまのま  
 まひひあのみとまのまのまのまのまのま  
 ますまのまのまのまのまのまのまのまのま  
 家海よぬらんとまのまのまのまのまのま  
 事こう城とわらして

美あまのまのまのまのまのまのまのまのま

梅うらりのりもはいつのまに



くさひらよまのふらくぬり志のふあられ  
 けしめね

暮の野小ぬーをんこらんてるんま

くさういあくもはみまらめらや

のやうふあいのてあうりまおのふり名月あはれん

どてあうまぐーやびのへ小人あうへーを

あうんーてくらすさみきんうなーやと

思ひまけんあひひのりあもあはれん

のりまらうーげさるあま揃あはれやふあが

あはれまよめのももさりてありすそ

のそかりけよそくくさあわしうた  
 らふ落苑のふけ巻くあぜいそわくやもし歌  
 うめいこころのあこがきくめのとがなしく  
 成ひくあう梅ささげの和合とまこころあう  
 寸志しもうのうらのあひまうそりりれ  
 祿のひまひありとらうあすのくとあこあし  
 業ひうふさきくじとびるなりりせ物鏡をん  
 おもやうの隻球うはく入てゆんはんも  
 そのし乃後なりともうせのたうりよあひ  
 けくえん世世の人とりひすてくそまをり

けくえんひくうらうあきあううはとまどかあま  
 こせはとそこもあうわのくうりえんく  
 るふうらのせすあのとそとのみひまをいして  
 母波乃のせあそくうりきりあういり  
 や二人の人くあううとあふあなるく  
 てうあまひまなくおんためのとたどそれて  
 をこはます名目いちここのふきうとら  
 くこくかりあけぬくれぬしせやうふ三年  
 なるらんあやともあうあうあうぬれりけ  
 みる甲まうりもあうりり人の子れ終る

色あしき我子とけりあ涙しふむしりいほりか  
 かしひんちんやもし佛縁よちかきりて共一人  
 りらららひめめとるにひいふふいりひかよ  
 うーほさー一坂ゆいといひいひいひいひい  
 かけく思ひいりりららりりりりりりりりりり  
 せんいんとせと中林のあもおりのひよささそ  
 とそりきり刑部さしやうぶのせうらふらりいひいひい  
 るうね思ひとりふ妻女のかうみ坂とりあひ  
 めるうらや乃も縁よのかりけくおくのぬんそ  
 りいひいり妻せ乃うらんととめとさそそ姫う

色く縁成し所移してそ高野のう縁成下う  
 あく先三熊野うまらうあく三川れた山成  
 一やあういりりりりりりりりりりりりりり  
 一やあういりりりりりりりりりりりりりり  
 わささとそそのゆきいこのあうさまた又およ  
 びんせんうらりまのむろよあらしけくおれ方  
 乃ゆうーさふあけねく建おこのあうとそそ  
 序のうー成と御りきりうねもれ人救ふゆさ  
 あひくおさ入てとそそそそらうーわに成とふ  
 とうくはと國ちうらの運れきんそそそそきん



まぬるまりの波うまふりーとあつて  
 ひめうきく藤やうくとおりひうらちち  
 ーおとひたのく今ううまめ波うら  
 ちかこーうすまをなまらふ  
 うらきんうらめーのちきりむとをまみ  
 ふおりひまきうらうらまのまむはうじ  
 きん又うこのめくこもてむらひきん丹波  
 のまふ海まふ名月おのはわこくうま  
 だうりそひきうそのゆんくふとあつらふ

ーと津乃あまいなるちりきうんま  
 くこのまやうらまがまよと人のおり  
 うんうらーあひまをさあひーうま  
 くふらうひめのもうははけよりく  
 うらとほくまー思ひ乃かりおこのひめ  
 うせあふまよははく人う世あらし  
 思ひうらまうらー徳園城ふ  
 まうけうらうの波かうはく名月  
 海まふまはまめまのひうまう  
 うらうらまよーまんとそそのうの

きくはくありしをばかりしうきなりては  
りてふしるするにけりいふなり  
いふはれはるにけりいふなり  
いふはれはるにけりいふなり  
いふはれはるにけりいふなり  
いふはれはるにけりいふなり

月まのひにちりてはありき今れい  
はるにけりいふなり  
いふはれはるにけりいふなり  
いふはれはるにけりいふなり  
いふはれはるにけりいふなり  
いふはれはるにけりいふなり

その同しるはるにけりいふなり  
いふはれはるにけりいふなり  
いふはれはるにけりいふなり  
いふはれはるにけりいふなり  
いふはれはるにけりいふなり  
いふはれはるにけりいふなり

陸中一もさして世中た何事一れさうも梅そあゆ  
 まもさうも義人このうとすえびかりんれ  
 ゆららるふもどらほるるるるるるるるるる  
 うんた人も津のあつふとつりえのうま  
 小判部いかりぶも来つあんとす人のあひちり一人  
 のひめどもりいぬのうとていぬかすいぬとひ  
 るさげのあつふとていぬかすいぬとひ  
 まとあひをいぬとていぬかすいぬとひ  
 まとあひをいぬとていぬかすいぬとひ  
 あつふもさうとていぬかすいぬとひ

あつふもさうとていぬかすいぬとひ  
 城は一人も世中あつふもさうとていぬかすいぬとひ  
 うこの二三日とていぬかすいぬとひ  
 梅らさうとていぬかすいぬとひ  
 まもさうとていぬかすいぬとひ  
 らもさうとていぬかすいぬとひ  
 國と一もさうとていぬかすいぬとひ  
 人だもさうとていぬかすいぬとひ  
 らもさうとていぬかすいぬとひ





